

令和 4 年度 さいたま市立与野南中学校 学校だより

みなみかぜ



# 南風

第 1 3 号

令和 5 年 2 月 1 日発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

<学校教育目標> 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

## 安全確保について考える

校長 吉原 誠 士

今冬一番の冷え込みとなった1月25日、登校する生徒たちを寒風の中で校庭に集合させることとなりました。給食調理の方々も準備を始めていたのですが同様に外でお待ちいただくことになりました。これまでも市役所等に「学校を爆破する」「生徒に危害を加える」といった不審なメールが送りつけられていて、連絡を受けた各学校は安心メール等も用いて注意喚起をしてきました。今回は学校宛にも直接FAXが届いていたので、万が一に備えて校庭に留め置くことにしたのです。担任と養護教諭が生徒の健康観察を行い、他の教職員が校舎内外を点検、異常がないのを確認した上で教室に入りました。

人によって「危機管理」という言葉へのイメージや解釈は様々なようです。学校安全に関しては文部科学省のページにも説明があり、本校にも市の要領に従い作成した少々厚めのマニュアルがあります。私自身は日頃から次に起きそうなことを予想して危機の未然防止を図り、緊急事態が発生した場合の対応は紙媒体に頼りきらずに自分の頭で最善策を考え出そうと決めています。そのためには情報収集に努め、過去の経験にとらわれて判断を誤らないようにすることが大切です。このような習慣が身に付けば、想定外の事態にも応じることができそうです。判断材料を集め、思考することは放棄できません。

今回のような脅迫があるだろうことは予測していました。ここを「どうせフェイクだろう」と言い切り、関係者に注意を促すだけで乗り切ることも可能です。しかし、最悪の事態を想定して避難を呼びかけました。生徒たちにとって嫌な思い出ではあっても、危険回避を体験することでの効果もあったのではないかと思います。それは危機感を痛切に心に留めたこと、実際の行動を通じて身の守り方について自ら検討する機会が得られたということです。全員が教室に入ってから「テロ行為に対して怒りの感情をもつことは当然であり、必要なことである」「しかし、そうではあってもこちらを混乱させようという相手の手に乗らず、冷静・平静を保ちながら行動すること」と放送し、ここでも「前後の事情と目の状況を判断材料にして、自分の頭で最善、次善の策を練って行動すること」を強調しました。

以前、飛行機で隣に座ったフランス人が「テロを恐れて公共の交通機関を使わないようにしたら、テロリストの思う壺だ。それなりの備えをしながら通常の活動を続ける」と言っていました。その胆力に驚いたことを思い出していたら、翌日にも脅しのFAXが届きました。そこで、この日は不審者が入れないように1階の開放部分をすべて閉鎖し、人の出入りを職員玄関に限定して、通常通りの教育活動を行うことにしました。部活は中止して明るい内に帰宅できるように一斉下校とし、教職員が通学路を巡回、警備しました。浦和西警察は校内にパトカーを乗り入れて警戒にあたってくれました。今後も連携しながら学校と地域の安全を図っていきます。今週は平常状態に戻しましたが、安全を過信している訳ではありません。・ ・ ・とは言いつつ、安全・安心が当たり前前に保証されるような日本であり続けてほしいとも願っています。そういう国をつくり、支え続けられるような人材を輩出する与野南中学校にしたいと述べるのは少し欲張りなのではないでしょうか？ ご協力をよろしくお願いいたします。